# 竹田陽一の経営随筆集

2022 年 5 月 17 日　第 12 号

## 良い本・悪い本・普通の本　　その８

### ９．　語源を確かめず文章でゴマ化している

「稽古」という熟語があります。
小学館の大辞泉という、厚い辞書で引いてみると２番目の意味として、「いにしえを考える」と解説されています。これは重要性が高い言葉であるのに、その意味が人によって「バラバラ」に説明されているときは、自分の意志を、他人に正しく伝えることができなくなります。

こうなるのを防ぐには、「昔の書を読んで、物事の道理や故事を学び直しなさい」と解説されています。つまり稽古は、重要性が高い言葉であるのに、人によって違った意味に使われているときには、「語源をきちんと確かめなさい」と、教えているのです。

### ａ.経営理念は人によってバラバラ

経営書によく出てくるのが、「経営理念」になります。
これは「経営」と、「理念」の合成語になります。経営理念を正しく定めるには、「経営とは何か」と、「理念とは何か」の２つを、正しく理解しておかなければなりません。

まず１番目は、経営になります。
経営は人が考え出した概念のため、形がなくてつかみどころがないので、経営の意味は人によってバラバラに考えられています。これには天才コンサルタントのドラッカーの、創造する経営者、経営者の条件、イノベーションと企業家精神の３冊の本を、何回も熟読する必要があります。

２番目は、理念になります。理念の語源は、古代ギリシャのソクラテスの弟子であったプラトンが言った、「イデア」にあります。
明治になる数年前、島根県は津和野藩で、語学の天才であった「西・周」が、フィロソフイを哲学と、イデアを理念と訳したそうです。そういえば中国の古典に、理念の言葉は一切出て来ません。
イデアの意味は、「最も理想的な考え方の確立」になります。

これからすると経営理念とは、「最も理想的な経営方法の確立」になるのではないでしょうか。従業員１人当たりの経常利益を、業界平均の２倍以上を 10 年間続けている社長には、最も理想的な経営方法が解っている人になるでしょう。

ところがコンサルタントが書いた本の中には、理念を全く違った意味で説明しているのが多く見られます。この著者は理念の語源を確かめず、空想で書いているのは明らかです。
ドラッカーが、「何々の哲学という本をよく見かけるが、哲学を安易に使うのはよくない」と言っているように、イデアの語源を確かめないで、安易に理念を使うのは考えものでしょう。

### ｂ.戦略の意味も人によってバラバラ

経営では戦略を初めとして、マーケティングやリーダーシップなど、いくつもの用語が使われていますが、その意味が本の著者によってバラバラに説明されていることはいくつもあります。

　その代表格といえるのが戦略です。戦略についての意味がバラバラなのは日本だけかと思っていたら、アメリカのコンサルタントのＪ・バーニーが、戦略の意味は「本の著者の数だけある」と言っているようにアメリカでも人によってバラバラに表現されているようです。

　もしそのように感じたときには、「語源はどうなのか」、あるいは「これを最初に言った人は誰で」、その人は「どのような意味で言ったのか」について、本を書く人はきちんと確かめてみるべきでしょう。もちろん文章のすべてをこうすることはできないでしょうが、本のテーマとなる「重要なもの」については、語源を確かめてみるべきでしょう。しかもこうすると、意外な事実を再発見することがしばしばあり、これはとても役立ちます。

以下は、次号に続く。

ランチェスター経営（株）
〒810-0012　福岡市中央区白金 1-1-8　チュリス薬院 301
TEL　092-535-3311　FAX　092-535-3200
メールアドレス customer@lanchest.co.jp　HP　https://www.lanchest.com